

# 「無告の民」の心を救え

## カンボジアで精神科医養成

AMD A  
オスロ大



カンボジアでただ1人の  
精神科医、ケ・チュムさん

委員長の精神科医、桑山紀彦さん(三)が現地を訪れ、自宅で細々と精神科

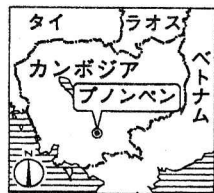
に精神科が設けられた。同科の開設でケ・チュムさんが担当医になったが、他に精神科医はおらず、AMD Aと、新たに協力を申し出たオスロ大が、カンボジア人の医師や看護婦を養成することになった。

新たな国づくりに取り組みカンボジアで日本の民間援助団体、AMD A (アジア医師連絡協議会、本部・岡山市)とノルウェーのオスロ大学が協力して現地の精神科医と看護婦計十四人を養成する。長期にわたる内戦と

ボル・ポト政権下での虐殺で、同国には心の障害を持つ人が少なくないと言われるが、治療機関は今年六月、国立シアヌーク病院(プノンペン市)に出来たばかりの精神科があるだけ。しかも、月百人を超える患者に医師はただ一人。プロジェクトは年末からの予定だ。(文・写真 社会部・水置 恒夫)

同国でたった一人の精神科医、ケ・チュムさん(四五)によると、カンボジアでは伝統的に精神的疾病の治療は折とう師に任

タイ ラオス  
カンボジア  
アノンペン  
ベトナム



されていた。シアヌーク政権時代(一九五三—七〇年)にあったただ一つの精神科医院もポト時代に閉鎖され、二十年以上、科学的な精神科医療が途絶えていた。

昨年二月、AMD A・カンボジアプロジェクト

の治療をしているケ・チュムさんを知り、精神科医療をめぐる同国の現状を聞かされた。同八月、AMD Aはコーディネーターを派遣し、保健省と交渉、病棟改築資金や薬剤の提供を申し出、その援助で今年六月、同病院

十五歳以上の患者はボル・ポト時代に受けた心的障害を引きずる人が多い。それ以下の若い人は、ポト時代を生き抜いた親との世代感覚の違いからノイローゼになる人が多い」と話している。